

1. 授業の概要(ねらい)

現代の企業は大企業に限らず、組織によって業務(仕事)を遂行している。組織は上手に運営しなければ、目的を達成できず、赤字や廃止となってしまう。本講義では、管理(マネジメント)を担当すると必ずどこかで遭う、業務遂行上の失敗、これらをどのように解決していくのかを学習する。企業活動の中で安全への取組みは不可欠かつ最重要課題である。特に鉄道は過去の事故・失敗から得られた教訓をもとに今日がある。安全を実現する取組みを学び、失敗を生かすにはどう考え、どう行動すべきか、想定外と言わないようにするにはどうすべきかを学ぶ。

本科目は、実務経験のある教員による授業です。担当教員は、大学卒業後、60歳の定年退職まで鉄道会社に勤務していました。会社では、主に総務・法務部門および監査部門、新規事業としての有料老人ホームの業務に携わりました。これらの業務知識・経験に、中小企業診断士としての知識・経験も加えて講義を展開していきます。

2. 授業の到達目標

- ①安全文化醸成とマネジメントの関係を簡潔に説明できる。
- ②ハインリッヒの法則について、隠べいの恐ろしさ、マニュアルの弊害など安全の基本的な事項を説明できる。
- ③安全文化の発展と劣化について、具体的な事例を絡めて説明ができる。

3. 成績評価の方法および基準

中間レポート(30%)、リアクションペーパー(20%)、期末レポート(30%)、授業参加態度(20%)の配分によって総合的に評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

倉田聡 著

『安全文化』
日本規格協会

参考文献

畑村陽太郎 著

『最新図解 失敗学』 ナツメ社

中尾政之 著

『失敗百選』 森北出版

5. 準備学修の内容

各回授業の最後に次回扱うテーマを示すと同時に、テキストの関係箇所および重要な用語・概念を指摘します。テキストの当該箇所を熟読し、よく復習してレポート・リアクションペーパーに備えること。

6. その他履修上の注意事項

授業前に着席位置を個人毎に指定する場合は、その指示に従うこと。出席管理を厳格にします。入室時と退出時の2度、学生証をカードリーダーにタッチをすること。学生証を忘れた場合は必ず申告すること。中間レポート・期末レポート未提出・欠席数が授業回数の1/3を超えた学生は成績評価の対象外です。遅刻・早退も授業参加態度に反映させます。また、リアクションペーパー等提出物の期限遅れも成績評価で減点します。

最後に今期は14回目がLMSによるオンライン授業となるので、各回の授業内容を注意して読んで下さい。

7. 授業内容

- | | |
|--------|--|
| 【第1回】 | イントロダクション。授業の進め方、学修の仕方、評価の詳細等 |
| 【第2回】 | 安全とは |
| 【第3回】 | リスクとは 事故事例:1991年信楽高原鉄道の列車正面衝突 |
| 【第4回】 | 安全文化の歴史 |
| 【第5回】 | 安全文化の定義 |
| 【第6回】 | 安全文化の特徴 事故事例:2000年日比谷線の列車脱線衝突 |
| 【第7回】 | 安全文化の発展段階と劣化 |
| 【第8回】 | 安全文化の醸成 と中間レポート |
| 【第9回】 | 安全文化の評価(自己評価) 事故事例:2000年雪印乳業乳製品集団中毒 |
| 【第10回】 | 安全文化の評価(第三者評価) |
| 【第11回】 | 安全文化の評価(根本原因分析RCA) |
| 【第12回】 | 安全文化の醸成のポイント1-6(職場の風通し) 事故事例:1954年青函連絡船洞爺丸沈没 |
| 【第13回】 | 安全文化の醸成のポイント7-12(失敗は改善の好機) |
| 【第14回】 | 安全文化の醸成のための実践 (LMSによるオンライン授業) |
| 【第15回】 | まとめと期末レポート |

※授業の計画はあくまでも当初の予定であり、新型コロナ(COVID-19)感染状況・講師の都合・授業進捗によっては変更されることがある。